

チャレンジ通信

埼玉県議会自由民主党議員団
政務調査会長

なかやしき慎一

霜月に思う

11月を迎えて、朝晩は秋というより初冬の様相となつて来ましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？季節は確実に四季を巡っていきま

な出来事がありました。先ず、知事等特別職の給与の減額案については、厳しい社会経済状況を受けての提案との事でしたが、社会経済状況を鑑みた国の人事院勧告を基に県人事委員会が行う勧告を待つて行うべきとの考え方により否決としました。



とを考えます。

また、今定例会ではいつもと違うテレビ局の取材、神奈川県議会、千葉市議会に続く「居眠り議員」取材が入っていました。報道された各議員とも事後の対応に追われたことと思いが、我が団においては、団

長・幹事長から該当議員に厳重注意が言い渡されました。報道の取材姿勢もいかなるものかと思うところもありませんが、やっぱり居眠りはダメですよ。私にとつては、政務調査会長としての集中力を高めねばならぬいきつけになりました。



10/13 自民党県議団政策大綱提出後に、令和3年度市町村要望&議員要望も提出しました



討議資料



発行者
県議会議員 中屋敷慎一
〒365-0039
鴻巣市東3-11-18-103
TEL 048-541-8110
FAX 048-541-0256

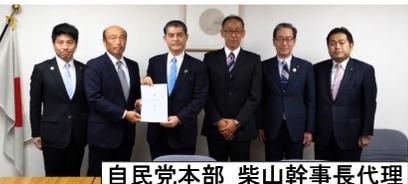


花き、野菜等生産者の支援について要望

10月29日(木) 自民党本部の柴山幹事長代理と葉梨農林水産副大臣を訪問し、本市花組合を中心とした生産者の皆さんに申請頂いた、「高収益作物次期作交付金」の運用見直しに対する善処を求める要望活動を行いました。これは、コロナウイルス感染症の影響を受けた生産者が次期作に前向きに取り組む為の交付金で、予想を大きく上回る申請によって農水省が要件変更を行うとしたことへの抗議の活動でもあり、中根、野中両議員のお力添えもあり、追加措置が決定しました。



農林水産省 葉梨副大臣



自民党本部 柴山幹事長代理

県議会9月定例会報告

新型コロナ専用仮設病棟の整備に着手

一般会計補正予算

【第7号】 877億4,996万2千円

【第8号】 21億3,961万1千円

【第9号】 414億7,054万5千円

前回補正に次ぐ大型補正予算で体制強化へ



※エクモイメージ

県議会9月定例会は9月24日に開会し、一般会計補正予算【第7号】877億4,996万2千円、【第8号】21億3,961万1千円、【第9号】414億7,054万5千円の計上などを議決し、10月14日に閉会しました。(一般会計補正後累計 2兆3,083億9,014万4千円)

新型コロナウイルスの感染が警戒を要するレベルで続く中、補正予算【第7号】では専用医療施設の整備をはじめとする入院医療機関の体制強化のため、690億9,323万3千円の計上を決めました。具体的には、新型コロナウイルス感染患者専用の仮設病棟を運営する医療機関を公募し、その医療機関の敷地内や隣接地にプレハブを建て約320床を確保していく計画です。また、入院医療機関への支援はもとより、人工呼吸器やECMO(エクモ)等の設備整備への支援もさらに強化していきます。

その他、県内景気が急速に悪化していることから、経済活動の回復と「新しい生活様式」への対応として、観光関連事

業者への支援や中小企業のオンラインでの販路開拓への支援策等に6億89万3千円の予算が盛り込まれています。

季節性インフルエンザの流行期に備えるため 高齢者のインフルワクチンを無償化へ

補正予算【第8号】では、新型コロナウイルスに感染すると重症化するリスクの高い高齢者などを対象に、インフルエンザのワクチン接種を無償化するために、21億3,961万1千円の予算計上を決めました。

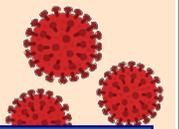
【無償化の対象は】

- 65歳以上の高齢者
- 60歳~64歳の基礎疾患のある方など
- 期間は10月~12月
(インフルエンザの流行がピークとなる1月~2月頃に備えるため)





かかりつけ医での診療・検査体制を整備へ



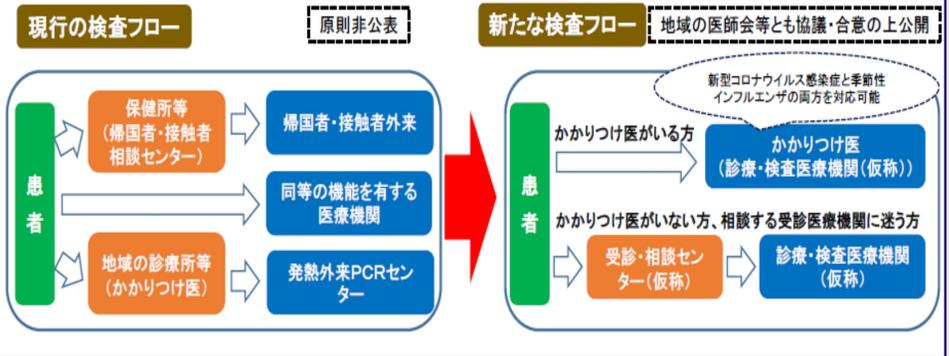
県議会9月定例会では、季節性インフルエンザの流行期に備えるため、さらに補正予算【第9号】414億7,054万5千円の計上を議決しました。国による予備費の支出決定を受けての予算措置ですが、身近な医療機関で新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの両方を診療・検査できる体制の整備をはじめ、重点医療機関の病床確保に対する助成費の増額、抗原検査費用の増額、生活福祉資金の特例貸し付け事業への補助金の増額が盛り込まれています。

新型コロナに関しては、これまで保健所に設置されている「帰国者・接触者相談センター」で対応していましたが、これからは発熱などを訴え、新型コロナかインフルエンザかの判断が難しい患者が増えると予想されるため、地域のかかりつけ医を窓口とすることで、より多くの患者に対応して検査できるようになります。

なお、両方を診ることができる医療機関は、県が地域の医師会と協議の上指定し、随時公表して参ります。

次のインフルエンザ流行に備えた体制整備について

- ・季節性インフルエンザの流行期には多数の発熱患者の発生が予想されるが、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザを臨床的に鑑別することは困難である。
- ・これまでの検査体制では、多発する発熱患者を診療、検査することが困難であるため、住民の身近な医療機関で新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの両方を診療・検査できる新たな体制を10月をめどに整備する



なかやしきコロナに負けず活動中!!



新型コロナウイルス感染症対策特別委員会

今年度の立ち上がりと共に新型コロナウイルス感染症対策が県執行部、県議会共通の課題となり、第1波がやや落ち着きを見せている状況下において、第2波にしっかりと備えるための議会としての考え方を示すべく、「新型コロナウイルス感染症対策特別委員会」が設置され、7月29日、8月25日、31日、9月2日と4日間の集中審査を行いました。その結果、9つの分野について意見・提言を行うこととし、代表例を紹介すると、

総括的事項については、県民をどう守るかという視点に立った、対応マニュアルを策定すること。

組織分野については、これまでの新型コロナウイルス感染症対応の教訓を生かし、感染症や台風などの有事に備え、職員定数の見直しを図ること。

財政分野については、財政調整基金について、緊急の対応を可能とするべく基金残高の復元、確保を図ること。

情報発信等の分野については、県民が必要とする情報をよりわかりやすく伝えることや、行政手続きのワンストップ化、ペーパーレス化及びオンライン化等、デジタルトランスフォーメーションに対応すること。

医療分野については、国の新たな推計に基づいた宿泊療養施設を確保すると共に、感染状況の実態に合わせて感染者の多い地域での宿泊療養施設の確保を図ること。

福祉分野については、福祉施設間の互助ネットワークの構築やケアラー支援等の事業は、緊急事態下においても即応支援を行えるような連携・協力体制を構築すること。

教育分野については、感染を懸念して一定期間自主的に休んでいる児童・生徒の学びの遅れを取り戻すべく、県は強い問題意識を持って市町村への指導・連携を図ること。

経済分野については、県内各地域を含む社会全体のデジタルトランスフォーメーションの実装を加速するために基本計画を策定すること。

雇用分野については、民間企業が雇用を維持できるように経営者に対する支援も拡充すること。などの意見・提言を取りまとめ、知事に提出しました。12月議会で対応状況を確認して参ります。



9/2 第4回特別委員会質疑の様子

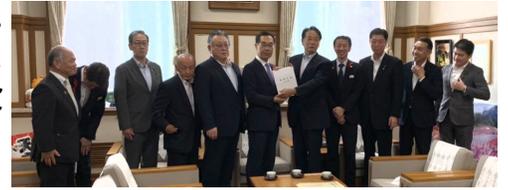
埼玉県防犯キャンペーン

10月12日(月) 防犯のまちづくり推進議員連盟の一員として、埼玉県防犯キャンペーンに参加しました。本来なら浦和駅での活動後に、各地域振興センター管内でも実施されるはずでしたが、今年はコロナの影響で浦和駅でのフェイスシールド、マスク、手袋着用での活動のみとなりました。



自民党県議団 令和3年度政策大綱の提出

10月13日(火) 政調会の活動の中で大切な事業である、「自民党県議団令和3年度政策大綱」を大野知事に提出しました。県執行部が来年度の予算や事業の編成作業に取りかかる前のこの時期に提出する政策大綱、今年は合計336項目にわたり、例年より50項目ほど多い内容になりました。柱になっているのは、「新型コロナウイルス感染症対策」「強靱な県土づくり」「生産性革命」「人づくり革命」等で、特に「新型コロナウイルス感染症対策」には特段の配慮を求める内容となりました。



ボーイスカウト鴻巣第2団技能章

(公民章) 勉強会講師

10月29日(木) 育成会副会長を拝命している「ボーイスカウト鴻巣第2団」の大学生6人、高校生2人で構成された、「チームエンプティ」の皆さんの技能章(公民章)の勉強会の講師としてお声掛けいただきました。当日は、県議会議員の仕事をご理解いただくための資料を持参し、あっという間の1時間15分を過ごさせていただきました。自らの40年程前の姿と比べると、ボーイスカウトの皆さんということもあり、ハキハキとした物怖じしない青年達でした。これからの活躍を大いに期待しています。

